

# 今後の課題（省エネルギー基準）

- 住宅・建築物の省エネ基準については、一次エネルギー消費量を指標として建物全体の省エネ性能を評価できる基準に見直し。
- 今後の課題としては、本合同会議及びパブリックコメントを踏まえ、基準適合仕様例の情報提供、省エネ手法に応じた評価方法の改善、基準の達成状況等を踏まえた水準の検証等が挙げられる。

## 1. ご指摘を踏まえて早急に対応すべき課題

- 特別な調査又は研究に基づく評価など例外的な規定の具体的な運用
- 省エネ基準に適合する外皮・設備の仕様例の情報提供【住宅】
- ポイント法に代わる簡易評価方法【非住宅】
- PAL(年間熱負荷係数)に代わる外皮の評価方法【非住宅】

## 2. 今後の取組及び課題

### (1) 評価方法の改善

- 知見の蓄積等を踏まえた評価方法の見直し・改善
  - 改修・設備更新などの場合の簡易な評価方法
  - テナントビルなど設計時点で具体的な使用方法が確定しない場合の取扱
  - 自然換気・通風利用などのパッシブ手法の評価方法
  - 運用段階・体制も考慮した省エネルギーの評価方法

### (2) 水準の検証

- 省エネ基準の達成状況等を踏まえた水準の検証の実施

### (3) その他

- 省エネ基準の改正を踏まえた住宅性能表示基準や長期優良住宅認定基準の見直し
- 建築主に対する情報提供
  - 消費者が直感的に理解しやすい一次エネルギー消費量に関する情報提供
  - 建築主の省エネ・省CO2対策に関する意識の向上に向けた情報提供
- 伝統木造住宅等の評価方法の検討、中小工務店・大工の省エネ設計・施工技術の向上支援